

文明開化を生きた歌人

おおくま べんぎょく
大熊弁玉

2022年

9/15 (木)

13:30 開演 (13:00 開場)

**横浜市磯子区民文化センター
杉田劇場 4階 リハーサル室**

8月6日(土)より予約受付

参加費 500円(資料代を含む)
支払いは当日

定員 50名(先着順)

講師：増田恒男氏

前・司馬遼太郎記念館学芸部長
大倉精神文化研究所客員研究員



大熊弁玉

文政元(1818)年、江戸に生まれ、増上寺で修業ののち、嘉永3(1850)年、神奈川宿の浄土宗三宝寺(現・神奈川区台町)第21世住職となった。明治13(1880)年63歳で没するまで神奈川に住み、その間、得意とする短歌・長歌で異人館、人力車夫、蒸気車、鉄道自殺など開港から文明開化にかけての新事物、変貌する世相などを題材に、多くの作品を残した。

雅号を「^{ゆらむろ}由良牟呂(瑤々室)」といい、長歌集「由良牟呂集」がある。

三宝寺では弁玉の命日(4月25日)を中心に、彼の事蹟の顕彰と作品を紹介する「ゆらむろ忌」を開催している。



横浜絵—横浜鉄道蒸気出車之図



由良牟呂集



弁玉師墓碣誌并銘

【申込方法】お名前・ご住所・年代・電話番号・FAX番号等を裏面申込書に記入して、9月5日(月)までにメール、FAX、郵送、持参してください。杉田劇場ホームページのフォームから、または写メールでも申込ができます。
〒235-0033 横浜市磯子区杉田 1-1-1 らびすた新杉田 4階
横浜市磯子区民文化センター杉田劇場
TEL:045-771-1212 FAX:045-770-5656 メール:sugigeki@yaf.or.jp

E-mail : sugigeki@yaf.or.jp

FAX 045-770-5656

このQRコードからも
申し込みできます→



第56回いそご文化資源発掘隊参加申込書

申込開始：8月6日(土) 〆切：9月5日(月) ※当日消印有効

第56回いそご文化資源発掘隊参加申込書 〆切：9月5日(月)

ふりがな		年齢	
お名前		歳	
ご住所	区		
お電話		携帯電話	
FAX		E-mail	

申込方法：この用紙にご記入のうえ、メール、FAX、郵送、持参で杉田劇場までお送りください。あるいは、この内容をメールや写メールでもOKです。

E-mail: sugigeki@yaf.or.jp

大熊弁玉の『由良牟呂集』より（増田恒男氏の解説）



【蒸気車】自筆短冊（左写真）

《読み》

翅（つばさ）えて雲路（くもじ）を翔（かけ）るここちせりこや今の世の天の鳥船

《大意》

蒸気車は、あたかも翼を得て空を飛ぶ、神話にある神様が天空を移動する船のようだ。

《解説》

明治5年9月12日(太陽暦で10月14日…現・鉄道記念日)に、新橋—横浜間29Kmの鉄道開業式が明治天皇臨幸のもと横浜・新橋の両駅で挙行された。

正式開業は翌日で、当初は午前8時から午後6時まで1日9往復で運転され、所要時間は53分だった。途中駅は神奈川、鶴見、川崎、品川である。

弁玉の蒸気車を詠んだ和歌からは、鉄道の走る様子を神話に出てくる怪物に喩えており、蒸気機関車を見ての驚きが伝わってくる。このように蒸気車を詠んだ弁玉だが、明治11年弁玉が浜離宮を参観した紀行文「浜のこつみ」では、神奈川駅から新橋まで蒸気車を利用したとある。鉄道が開通してから、弁玉は芝増上寺へ行く際には、気軽に汽車を利用していたのである。

【ご参加にあたってのお願い】

- ・会場への入場時に体温チェックをさせていただきます。37.5度以上の方の入場をお断りする場合があります。
- ・入館時に手洗い、手指消毒をお願いします（施設で用意しています）。
- ・マスクの着用をお願いします。